

# 令和8年度 授業づくりの視点

東部教育事務所

## 1 指導案作成に関する視点

群馬県教育委員会「[学習指導案形式](#)」の解説や指導案例を参考にして、指導と評価の一体化を図り、児童生徒が育成を目指す資質・能力を身に付けられる単元(題材)を構想しましょう。



観点	指導案作成上の留意点
①単元(題材)の目標	○学習指導要領で示された各教科等の内容を基に、児童生徒が単元や題材を通して身に付けたい資質・能力を明確にした単元(題材)の目標を設定する。
②児童生徒の実態把握	○前単元(題材)までの学習や系統性、生活経験等を踏まえ、本単元(題材)の目標との関わりから、実態を捉える。
③評価規準	○「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(国立教育政策研究所)を参考にし、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて、各観点の評価規準を作成する。
④指導及び評価の計画  ※道徳は不要	○単元(題材)を通して資質・能力を身に付けた児童生徒の姿を具体的にもち、学びのストーリーを意識した問題解決的な単元(題材)を構想する。 ○単元(題材)の目標の達成につながる「単元の課題」を設定し、その解決に向けた学習活動を明確にした計画を立てる。 ○単元(題材)の評価規準に照らし、「指導に生かす評価」「評定に用いる評価」を行う各単位時間や場面を精選して、評価の観点を位置付ける。
⑤言語活動、 題材等の価値  ※必要な教科等のみ	○指導者の意図に基づき設定される言語活動、題材等について、児童生徒の資質・能力の育成とのつながりから、その魅力や必要性等を明確に設定する。

## 2 授業づくりの基本に関する視点

使用するツールは変わっても、授業づくりの基本は変わりません。初任者からベテランまで、全ての教職員が意識しましょう。



観点	授業づくりのポイント	現れてほしい児童生徒の姿
①心理的安全性	○児童生徒一人一人の人権を尊重する。 ○学習規律を整える。 ○児童生徒の様子に目を配り、適切な声かけや励まし、賞賛などを行う。	○児童生徒が安心して発言している。 ○児童生徒が失敗を恐れずに、繰り返し挑戦している。 ○児童生徒が互いに認め合い・励まし合い・支え合いながら学習に取り組んでいる。
②めあての設定	○児童生徒が「やってみたい」「なぜだろう」などの思いをもてるような手立てを講じる。 ○学習の目的や見通しをもてるよう、めあてを児童生徒と一緒に設定する。	○児童生徒が単元(題材)の学習計画や前時の振り返りなどを生かし、学習の連続性を意識してめあてを考えている。
③板書 資料提示 ICT活用	○構造的な板書や精選した資料の提示、目的を明確にしたICTの活用を適切に行う。	○児童生徒が板書や資料、ICTを活用して学習を効果的に進め、自らの思考を整理したり、理解を深めたりしている。
④まとめ 振り返り	○自身の学びや変容を自覚したり、次時の学びや意欲につなげたりすることができるよう、単元(題材)や本時の学習のまとめ・振り返りの時間を確保する。	○児童生徒がめあてと正対したまとめをしている。 ○児童生徒が本時で「何を学んだか」「どのように学んだか」「学びをどのように生かすか」などを発表したりノートや端末に記録したりするなど、めあてに沿った振り返りをしている。

### 3 授業改善に関する視点

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」を通して一人一人の児童生徒が資質・能力を身に付けられるようにしましょう。

観点	授業づくりのポイント	現れてほしい児童生徒の姿
①環境の構成	○児童生徒が「～する」授業を通して資質・能力を身に付けられるような環境を構成する。	○児童生徒が学習のゴールに向けて学び方を選択したり、既習事項や掲示物などを参考にして考えたり、友達と学び合ったりするなど、主体的・対話的に学習に取り組んでいる。
②見方・考え方	○児童生徒が各教科等の見方・考え方を働かせながら学習のゴールに向かえる状況を整えた上で、自己決定、対話・交流、試行錯誤する場面を効果的に取り入れる。	○児童生徒が各教科等固有の視点で事象や言説などを捉え、学習のゴールを設定している。 ○児童生徒が比較したり、関連付けたり、別視点で考えたり、具体化・抽象化したりするなど、多面的・多角的に考えながら学習のゴールに向かっている。
③教師の直接的な働きかけ	○児童生徒が学習のゴールに向かえる問いかけや発問を行う。 ○一人一人の学習状況を把握して、学習のゴールに向かえる言葉かけをしたり手立てを講じたりする。	○児童生徒が学習のゴールを見通して学習に取り組んでいる。 ○児童生徒が学習のゴールを再確認し、学習を調整している。

